

# 衛星データによる陸域環境モニタリング手法の開発と陸域環境に関する研究

環境科学コース 村松 加奈子

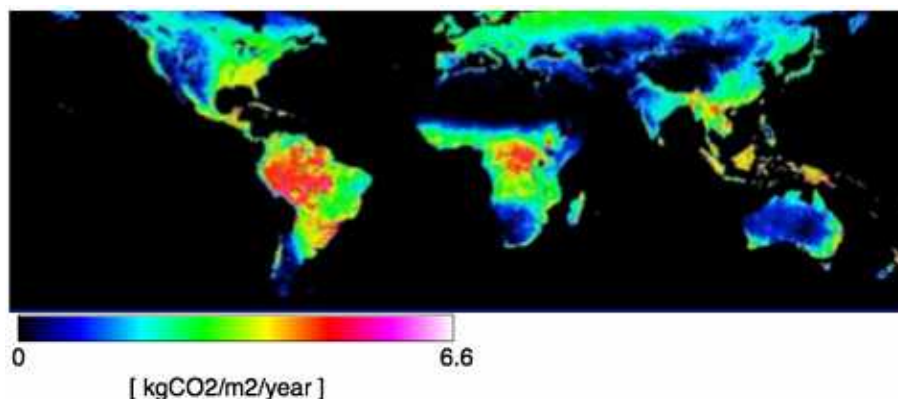


図1 衛星データからの年間の純一次生産量の推定結果

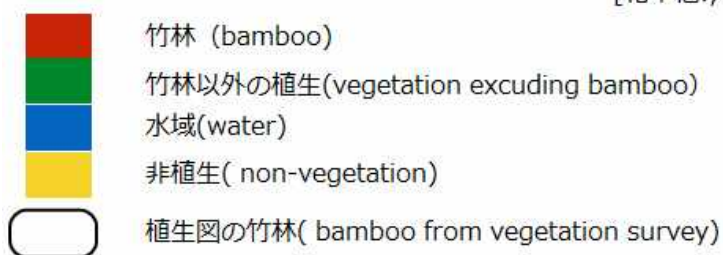
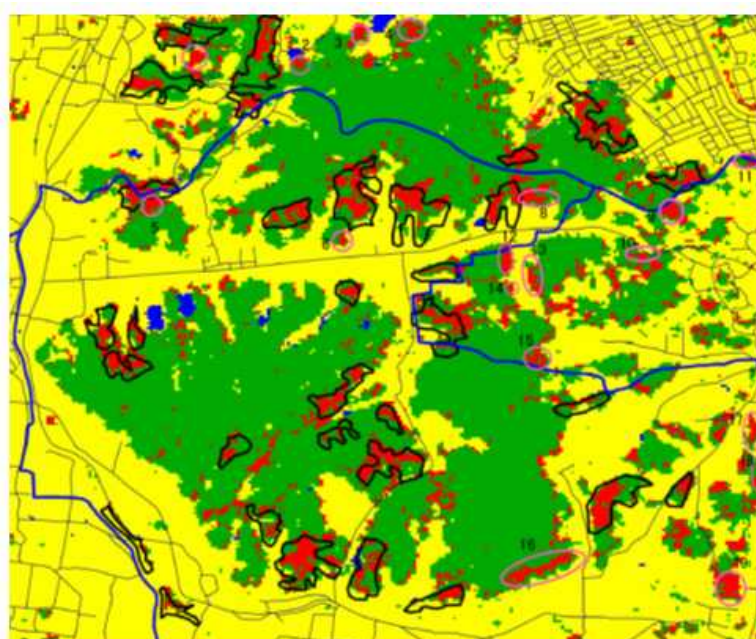


図2 衛星データによる竹林分布図と植生図との比較

植生の環境への緩和能や土地被覆変化把握のために、衛星データを用いた研究を行っています。全地球スケールでは、全地球を高頻度で観測する衛星データを用いた光合成による植生の炭素固定量推定のアルゴリズムの開発、地域スケールでは、地域を詳細に観測する衛星データを用いて、ナラ枯れや竹林の分布拡大について調べています。アルゴリズムの開発や衛星データからの解析結果を検証するために、野外で光合成測定や分光反射率測定、土地被覆調査を行い、解析結果の精度向上をめざしています。

キーワード：リモートセンシング、総生産量、純一次生産量、土地被覆分類